

令和5年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第2回まちづくりん部会 記録

日時:令和6年1月22日(月)

午後2時30分~4時00分

場所:刈谷市役所 604会議室

出席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
刈谷市小中学校長会	細川 圭子
刈谷市自治連合会	大野 裕史
一般社団法人まちづくり支援センター 代表理事	塚本 裕章
文化工房かりや 代表	久保田富士子
一般公募	岡 由香
市民活動部長	近藤 和弘

欠席者

一般公募	水鳥 幸子
------	-------

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	内藤 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバーズ	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバーズ	理事・事務局長	遠山 涼子
NPO法人ボランタリーネイバーズ	事務局スタッフ	加古 麻理江

1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、課長補佐兼協働推進係長が開会を宣した後、資料確認を行った。
- ・米田部会長より挨拶が行われた。

1月17日~21日に、石川県の被災地で支援活動をしてきた。震災後のまちづくり復興について、多く考えさせられることがあった。刈谷市でも防災、減災のまちづくりを考える必要がある。また、避難所運営について、指定管理施設と行政施設では違いがあり、官民の関わり方について学びがあった。刈谷のまちに活かせることがあると良いと考える。

2 議題

(1) まちづくりコーディネーターの活動状況について

■【資料1-1～1-3】を提示し、まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）について事務局が説明

（まちコの活動報告）

・令和5年4月以降、延べ計47名のまちコを11件の事業に派遣した。依頼は自治会や行政などからあり、派遣内容は記載のとおりである。

（まちコゼミ）

・令和5年度はこれまで、大野ゼミを9回、塚本ゼミを5回開催した。

▼大野ゼミについて、大野委員より紹介

・月1回開催し、毎回5～10名ほど参加がある。プレゼンテーションの技術について学び、パワーポイント資料の作成を行った。パワーポイントの手法ではなく、プレゼンテーションで伝えたい内容を整理する技術を中心に行っている。全員がプレゼンテーションを実践し、来月でこのテーマは終了予定である。

▼塚本ゼミについて、塚本委員より紹介

・まちコの広報活動をテーマに実施。まちコ個々の活動を知ることで、“まちづくりコーディネーター”の広報につながると考えて実施してきた。各回ファシリテーターとスピーカーそれぞれ一人ずつまちコが担当。まちコ個人にスポットを当て、よりまちコの活動を知る機会となった。今後、団体の活動で人手が必要な場面やPRする機会など、これまでよりもコミュニケーションができるのではないかと。また、これらの活動に触れた人が、同じ人がまちコの活動も担っていると伝わることで、まちコの認知に広がることを期待したい。まちコ自身も能動的な活動につながることを期待している。

（まちコ交流会）

- ・【第1回】9月16日（土）に、刈谷市民ボランティア活動センターにて開催した。当日は、まちコ有志により運営し、大野ゼミで学習したまちコによる「マンガラート・Todo リストの活用」ミニ講座、まちコカフェ体験会を行った。
- ・【第2回】3月31日（日）午後開催。まちコの活動を知り合う「収穫祭」と、ワールドカフェの手法を元世話人の守随純子さんより体験を通して学ぶ。

（つなぎの学び舎）

・今年度は7月～2月の全7回講座である。13名より申込があったが、1名辞退し12名が受講している。これまでに、第6回まで開催。最終回は、2月17日（土）に刈谷市民ボランティア活動センターにて、「わたし発のまちづくりを提案しよう」をテーマにし、受講生が自身で考えた企画の発表会を開催する。これまでの講師、まちコ、地区の方にはオブザーバーとしての参加を呼び掛けている。部会員も是非参加していただきたい。

■質問・意見交換

委員：塚本ゼミでは、スピーカーとして自身の活動を振り返る機会となった。その経験から、自身の活動への原動力となった。

委員：まちづくり活動はまちコがスタート。大野ゼミで学んだ内容を塚本ゼミにて発表する機会となり、学びを活かす場となった。

(2) 共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

■【資料2】を提示し、協議事項について事務局が説明

(資料2／共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討)

- ・共存・協働によって、各自治会等で取り組まれるとよいこと、課題が具体化されている地域をモデルとした取組の検討を本部会における協議の方針とする。
- ・元気な地域応援交付金、まちコの派遣活動等で課題解決の方策検討に取り組む地区をモデル候補とする。モデル候補地区にヒアリングを行い、2年間にわたり部会で検討するテーマを選定する。
- ・上記の協議の方針のもと、第1回部会時の3つの自治会に加え、2つの自治会をモデル候補に追加した。
- ・【小山自治会】広報誌の活用や、既存事業の魅力向上、多世代交流に取り組んでいる。一昨年12月より、現在までに計8回の勉強会を開催。先月1年の成果を発表された。自治会加入率の低下や役員のなり手不足、子ども会会員の減少等の地域の課題を解決しようと努めている。
- ・【重原自治会】今年度、元気な地域応援交付金申請に向けた住民会議にて、まちコ派遣を行った。いくつかのサークルを立ち上げ、それぞれ楽しく継続するために必要なことや、活動の課題等について話し合った。
- ・【高須自治会】子ども・若者の育成を地域が応援している事例としてモデル的な自治会。自治会がボランティア団体「高須のがっこう」に委託する形で、若手の視点での地域活性化に取り組む、事業ごとにボランティアを募るなど、住民の巻き込みにも努めている。
- ・【築地自治会】地区長が地区活動に意欲的な地区。築地地区長は、第1回まちコ交流会に参加。取り組みを進める際に、前向きに検討していただけるのでは。
- ・【東刈谷自治会】イベント等を通じて、近隣住民同士が顔見知りになって共助の力を養い、地域の防災力向上を目指している。イベントやプロジェクトを積極的に開催。地域の課題解決に、行政と連携して取り組んでいる。
- ・部会の今後の流れについては、下記を検討している。長期的な計画であり、年度が替わると同時に、地区長が変わることも考えられる。そのため、モデル候補地区が変動する場合もある。来年度より実施するヒアリングについては、各地区長の話の伺いつつ進めていく。

【令和5～7年】

令和6年度第1回部会までに各地区にヒアリングを行い、ヒアリング結果からモデル地区の選定を行う。

【令和8～9年】

モデル地区が具体的に組み始めるよう後方支援を行う。

【令和10年度以降】

取り組みのレベルアップや他地区への展開を計る。

■質問・意見交換

(ヒアリング方法)

委員：ヒアリングについて、実施方法と地区長が交代した場合の引継ぎについてはどのように検討しているか。

事務局：ヒアリングシートをもとに行い、その場で必要に応じて聞き取る。途中地区長が代わることがあっても引継いで行ってもらえるよう取り組む。

委員：ヒアリングは、誰が実施するのか。

事務局：まちコを中心に検討している。ただ、まちコは23地区全てにはおらず、自身の活動を中心に行っている方や、登録のみの方もいるため、地区をまたいで活動することもありうる。

部会長：地区に住むまちコがヒアリングを行うと理想的だが、全地区にまちコがないこと、住む地区で行う難しさもある。将来的に他地区にも広げていくことを考えた際に、近隣の地区に住むまちコが行うと良い。

委員：地区長が代わることで、空気感も方針も変わることがある。段階を踏むにあたり、どのように申し送りが地区でされるのか。継続する形を考えられると良い。まちコが継続して関わると良い。

委員：岡さんの話に納得した。新しいことが歓迎されにくい雰囲気がある地区では、外部から入り込むことで他の情報も取り入れながら活性化につながるとよい。

部会長：地区によって違うが、地区長が1年で代わる、数年継続するなど、地区のならわし、作法がある。どのようにうまく引き継ぐか。地区長によって変わるのではなく、制度として継続できる形を考えられると良い。

（まちコと地区のつながりを設ける）

委員：地区長と市民協働課も、任期があり替わる。まちコは変わらない存在。つながりを理解している人が必要である。まちコの中には刈谷市民ではない人もいる。

部会長：まちコがあなたの地区にいるよ、と伝えるとよい。つながりがあると取り組みやすい。

委員：まちコが関わり続けることで、任期による役員の引継ぎの課題に対応するだけでなく、事務局となる行政の負担減になる。同じような活動ができる人を増やすことができる。地区の課題に対応できる部分もみんなで考えて、その方針を地区につないだり、学校やスポーツ推進員へつないだりといった役割もまちコの新しい関わり方として、行動に移す時に具体的に関わると良い。

（実施規模）

部会長：小垣江地区の場合、地区が広く、地域によっては新しい住民、昔から住んでいる住民と違いがある。地区全体ではなく、組といった小さな単位で行えると良い。

委員：西部地区は最も狭い地区。組長は6名で小回りが利く。町内会が課題を解決する機能を持っている。まちづくりが楽しくなるしかけづくりが課題である。

委員：西境地区では、組が4組である。組長は、地区の役員も兼ねている。1組 4~5 班、1班 30 世帯である。この規模であれば地区で動くこともしやすいが、例えば、地区が大きい元刈谷は全体で動くことは難しいだろう。会計については、組単位で持つことがほとんどである。地区単位での動きは現実的に難しいと考える。ただし、組長の負担や地区内の温度差が生じないよう配慮した取組を検討したい。実質的に取り組むためには、組単位で行うことが良いと考える。行政が組単位に対応することはできない。

委員：5~600世帯で一つの単位とすると目が届きやすい。子ども会や女性の会が少なくなっているように、自治会がなくなった場合、行政が自治会の役割を担わなければならない。

委員：組で取り組むのがよい活動、地区の方が良い活動とある。地区にこだわらなくてもよいと考える。

委員：亀城小学校を指定避難所としているのは、地区の枠ではなく、組単位で決められている。地域に縛られず、企業や市民活動団体なども1つの組として考えてはどうか。組で抱える課題は他も同様に課題としてある。組と同様に考えることで、機能を補完でき、自治会が解散することへの懸念が防げる。

委員：刈谷市公式 LINE を活用しても良い。若い世代からもヒアリングを行うことができる。地区の連携が取れている場合は、地区長は地域の課題を理解している。課題の認識が一致している地区もあれば、一致していない地区もある。若い世代からの意見からは、地区長が知らない課題も出てくるのではないかと。共通のヒアリング事項を設け、市全域、組単位、学校単位等で分けてヒアリングを行うと良い。それぞれを合わせたときに、地区別・課題別に共通する具体的な施策や法案が見い出せるように思う。その後、各単位にて実施した報告をした際に成果として現れていると、それぞれが主体的に考えられるようになるのではないかと。スポーツ推進員等も含めて既にある階層の連携に取り組みたい。

(当事者主体)

部会長：地区活動に関わるためには、地区の理解がないと進まない。地区の住民が納得しない限り、どのような良いことでも進まない事例が多い。地区への理解も併せて進めていく必要がある。

委員：まちコに限らず、つなぐ役割によって、当事者である地域の人と連携できるとよい。

部会長：大事なことは、直接顔をあわせて話し、足を運んで直接伝えることである。地区の住民が、まちコであると良い。地区の理解を得られるように、コーディネーターという存在が必要であり、納得してもらえるように関わる役割が必要である。

(課題解決のためのネットワーク)

委員：困っていることについて、解決できる人に呼びかける。地区の中だけでは見つからなくても、隣の地区や、学校に聞いてみて一緒に解決できたとしたら、自治会組織は必要なくなるかもしれない。

部会長：地区、地域の中にも、学校、企業、外国籍の方、障がいのある方等多様な人がおり、どこで区分するとよいか。市民協働課としては自治会・町内会という軸があり、いろんな人が関わっていて、いろんな人に影響のあることである。課題に取り組む段階になったら、改めて他の組織に関わってもらうことでもよい。

委員：万燈祭は既に地区ではなく企業が関わっており、地域に縛られない取組の実績がある。自治会組織がなくなっても、自治活動を担う人がいればよい。

委員：地域の中で起こっている縦割り活動をいかにつなげて、いかに“地域”の集合体がうまく回るシステムをつくるか。どういった形でまとめるかが成果をつなぐ肝になる。それぞれを融合する手立てを考えたい。

部会長：継続的にやるためには、企業、市民活動団体、自治会等の方たちと考えていくこともよい。地域活動に携わる人は、今ある活動で手一杯のイメージがある。モデルを設けて、少しずつ広げる。進める中での課題を受け止めて次に反映し、取組を広げていくこと。全地区へのアンケートも一案として検討したい。

委員：将来的に隣同士の地区が連携したり、会計担当同士が連携したり、情報が流通するようになれば、その一部に連絡すればよく、行政も楽になる。

(地域コーディネーターの関わり)

委員：学校では、「地域学校協働活動」を2022年度より刈谷市内でモデル校4校にて開始した。地域との結びつきが希薄になってきたこともあり、地域と学校が協働して行う取組を学校主体で始めている。富士松北小では、地域活動を知ることで子どもたちが地域を好きになり、理解する機会を作っている。小学校でかきつばたの保全ボランティアの活動を知った子どもが、富士松中に進むとボランティア募集を通じて実際にかきつばたの掃除を行う、大人になった時にかきつばたの保全活動に参加するといったように、子どもが成長した際に、地域に関わることを願って学校教育に取り組む。このような活動を行う「地域学校協働活動推進員(コーディネーター)」は地域から紹介して貰い、選んでいる。学校が関わることで、成果を地域に還元している。ちらしにまとめて地域に配布しており、そのことにより、地域に住む住民から子どもに裁縫を教えたいという要望があった。子ども達がとてもいい子で元気をもらえる、と言って帰る様子を子ども達が見ることで気持ちが循環する。まちづくりコーディネーターともどこかでつながりがあっても良いと思いながら、今は学校の活動をしっかり取り組む段階と考える。地域と学校をつなぐ役割として、コーディネーターは当面代えずに継続していく予定である。

委員：地域コーディネーターは、どのように募集したのか。

委員：地域の情報に精通されている方へ依頼した。教育委員会に地域コーディネーターをまとめる役割の方がおり、その方を通じて声をかけた。

部会長：小垣江東小学校から、授業で知り合った方を通して選ばれている。人を通して地域に詳しい方を選んでいる。地域活動を活性化するための1つとして、学校区で活動を行うことも良いと考える。同時に、地区長・自治会長の単位もある。提案があった通り、組単位で考えても良い。地区の成り立ちもあり、地区の特性に合わせて分けて、地区長との話し合い対象の範囲を選ぶと良い。また、継続的に関わられるようにするためには、役員に限らず、想いのある人の集まりを対象として進める方法も検討したい。

（実施期間）

委員：5年先では、社会の状況も変化している可能性がある。地区では、住民だけではなく企業、市民活動団体等も同じ地区で活動を行っている。将来的には、地区の単位にこだわらないことも出てくるのではないかと。同様に、地区と市民活動団体の融合も、市民ボランティア活動センターと市民協働課と一緒に取り組めば、ノウハウの蓄積になるのではないかと。

（モデル地区の提案）

委員：まちコ交流会では、地区長が若い世代の方と共に参加していた。マンガラートによる地域課題の解決に実際に取り組んでおり、LINE を活用している話が出ていた。全てをデジタル化するのではなく、削減できるところはしつつ、対応が必要な部分に余力を割いている。効率よくリソースを分配し、地区内で役割分担をして実施していた。若い世代も自分でやれる範囲で、自分で住みやすい地域にしたい想いは同じである。話し合う機会があることで、課題を共有、情報交換する場となり、地区の課題を住民同士で解決することができる。将来のモデルとして事例を共有するなど、他の地区がマネしたくなるようしかかけられるとよい。負担が楽になると雰囲気も良くなっていく。

（デジタルデバイスの効果的な活用）

部会長：高齢者でもスマホの活用が進んでいる。被災地では、ペット、水のことなど小さなコミュニティ単位のお知らせを共有することが必要となっていた。回覧板では遅い。日ごろから使っておくと、災害時にも役立つ。刈谷市でも同様にできると良い。

委員：すべてにおいてオンライン活用する必要はない。市民だよりを手で配布することで、孤立した住民の安否確認になる。仮にオンラインを希望する人が7割としたら、市民だよりの経費を7割削減でき、それを活かして3割の人に必要な対応をとれば効率も良く経費の削減にもなる。

（まちコの活動の幅の広がり）

部会長：夢ファンド審査会では、審査を待つ時間にまちコに関わりを持ってもらって交流する機会を設け、まちコの関わり良さを実感した。他の事業でも、まちコの関わりがあることで効果が出てきている。今後、刈谷市民ボランティア活動センターの事業でもまちコの関わりを広がっていきたい。あるまちコの方と話をした際に、まちコの活動の目標を決めることが必要と考えており、一度まちコで考えてみたいと話していた。まちコが活動しやすいよう、市民協働課は背中を押してあげるような関わりができると良い。

（総括）

部会長：地域活動の活性化には正解がなく、やってみないとわからない。規模の切り口、継続の仕方、アプリなどの手段の検討など、具体的に取り組む際に本日の意見を反映していただけるとよい。

(3)今後の予定

■第3回共存・協働のまちづくり推進委員会

日時:令和6年3月19日(火)午後2時~午後3時30分 場所:刈谷市役所7階 701会議室